

氏名	小松原 一正
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博乙第 号
学位授与の日付	平成16年6月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Spatially and temporally different expression of osteonectin and osteopontin in the infarct zone of experimentally induced myocardial infarction in rats (ラット実験的心筋梗塞の梗塞部におけるオステオネクチンとオステオポンチンの局在と経時的発現の相違)
論文審査委員	教授 大江 透 教授 梶谷 文彦 教授 佐野 俊二

学位論文内容の要旨

分泌型糖タンパク質であるオステオネクチンとオステオポンチンは他の細胞外基質との相互作用により創傷治癒過程で大きな役割をすることが知られている。本研究ではラット実験的心筋梗塞におけるオステオネクチンとオステオポンチンの局在と経時的発現の相違を検討しI型コラーゲンと比較した。ノーザンブロット法ではオステオネクチン mRNA は梗塞2日目では増加を見ず7・14日目で増加を示し、対称的にオステオポンチン mRNA は梗塞早期に著しく増加しその後減少した。ISHではオステオネクチン mRNA は梗塞7日目14日目の梗塞中心部で認められ発現細胞は fibroblast、myofibroblast、macrophage であった。オステオポンチン mRNA は2日目の梗塞辺縁部の macrophage で認められた。免疫組織化学でも ISH と同様の結果であった。オステオネクチン mRNA の発現経過は I 型コラーゲン mRNA と同様の経過を示した。以上の結果よりオステオネクチンは I 型コラーゲンと同様に梗塞後期の治癒機転に関与し、オステオポンチンは梗塞早期への関与が示唆された。

論文審査結果の要旨

本研究は、心筋梗塞後の創傷治癒過程における分泌型糖タンパク質であるオステオネクチンとオステオポンチンの役割について検討したものである。ラット実験的心筋梗塞モデルを用いて上記タンパク質の経時的発現を検討した結果、オステオポンチンは梗塞早期の治癒機転点関与し、オステオネクチンは梗塞後期の治癒機転点に関与していることを明らかにした。本研究は、従来十分確立されていなかった急性心筋梗塞部におけるオステオネクチンとオステオポンチンの発現に関して重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。